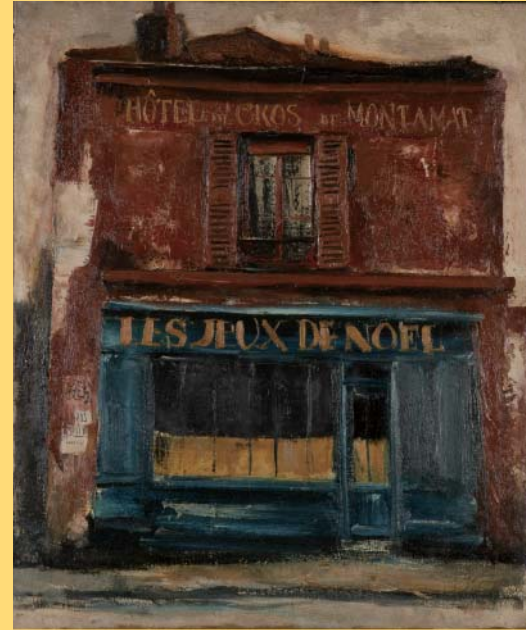




稗田一穂《幻想那智》
1979（昭和54）年 紙本着色



石垣栄太郎《街》 1925（大正14）年
油彩・カンヴァス



佐伯祐三《レ・ジュ・ド・ノエル》
1925（大正14）年 油彩・カンヴァス



瑛九《自転車》
1956（昭和31）年 油彩・カンヴァス



建島寛造《儀式》
1972（昭和47）年 アルミニウム・ステンレススチール・皮

企画展

プレスリリース

モダン・アートに出会う 5つの扉

—和歌山県立近代美術館名品展

2018年4月21日（土）～6月17日（日）

島根県立石見美術館（島根県芸術文化センター「グラントワ」内）

展覧会の概要

古代王朝の雄大な歴史を持つ「出雲」のある島根県と、日本でも随一の聖地「熊野」を有する和歌山県は、古くから深い縁を持ちます。『日本書紀』の一書には、出雲神話における重要な神である素戔鳴尊が^{すさのみこと}出雲に降り立つ前、その身から化生させた木種を、子の五十猛命ら三神を使わして紀伊に分布したことが語られています。両県は豊かな木の産出地としてだけでなく、原始的な自然信仰と祭祀・霊場の形を残し「はるかな異界に繋がる場所」として、中央政権から神聖視されてきたという点でも共通しており、ともに日本の歴史の転換期において重要な役割を担ってきました。

本展覧会では、本県と共通点をもつ紀の国の美術館、和歌山県立近代美術館の珠玉のコレクションの魅力を紹介いたします。

同館は、前身の県立美術館から1970年に現在の近代美術館として開館して以来、国内外問わず優れたコレクションを収集し、魅力的な展覧会を数多く開催しています。収蔵品のなかでも、特に日本の近現代美術史に大きな足跡を残した和歌山ゆかりの作家たちの油彩画や、日本の版画史を彩る多彩な版画家たちの作品群は、国内でも屈指のモダン・アートの名品として知られています。

本展覧会では、これらの絵画作品を中心に、このモダン・アートとの出会いの場面を5つの扉になぞらえてご紹介します。この展覧会を通じて、和歌山の魅力を知っていただくとともに、日本の近現代美術の珠玉の名品の数々をご堪能下さい。

展示構成とみどころ

第1の扉 神秘の国—きのくに・わかやま

モダンアートの扉を開く最初のプロローグとして、和歌山の魅力的な景観が描かれた作品群を紹介いたします。北から南まで広がる海岸線、自然信仰の残る奥深い山地、那智の滝など、当地の風景画から地域の特徴と描かれた背景に思いを馳せます。

第2の扉 渡海の夢—アメリカ・ニューヨーク

和歌山では、明治・大正期に海を越えて多くの移民が夢を抱いてアメリカに渡りました。石垣栄太郎、ヘンリー杉本など、苦難の末に当地で絵画修業に励んだ美術家達が、近代の日本の美術界にもたらした多様な展開のかたちをみていきます。

第3の扉 渡海の光—フランス・パリ

花の都でもあり、光の街でもあるフランスのパリ。佐伯祐三、川口軌外など、新たな芸術思潮を求めて旅立ち、西洋絵画の洗礼を受けつつ奮闘した日本人

画家たちの足跡を追います。また、和歌山ゆかりの画家の木下孝則、弟の木下義謙など石見では初出展となる作家の作品も必見です。

第4の扉 創生の炎—和歌山ゆかりの版画家たち

近代版画の黎明期に版画誌『月映』を世に出した田中恭吉や、日本創作版画協会や日本版画協会を結成した逸見享、戦後に国際舞台で活躍した浜口陽三など、和歌山は多くの優れた版画家を輩出しています。当地ゆかりの作家を中心に、魅惑の版画作品を紹介します。

第5の扉 深遠の相—閃光する個性

「関西美術」という大きな潮流の中、戦後に広がった表現の多様化を軸に、「具体美術協会」「デモクラート美術協会」の作家たちなど、個性がキラリと際立つ様々な作品群がならびます。新たな芸術への挑戦に光を当てます。

【主催】島根県立石見美術館
 【休館日】毎週火曜日（5月1日は開館）
 【開館時間】10:00～18:30（入館は18:00まで）
 【観覧料】※（ ）内は、20名以上の団体料金
 [企画展] 一般1,000（800）円、大学生600（450）円、小中高生300（250）円
 [企画・コレクション展セット] 一般1,150（920）円、大学生700（530）円、小中高生300（250）円
 【問合せ】〒698-0022 島根県益田市有明町5-15 島根県芸術文化センター「グラントワ」内 島根県立石見美術館
 担当：志田尾（広報）、左近充（学芸） TEL0856-31-1860/FAX0856-31-1884 <http://www.grandtoit.jp>

